

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームベにばら ユニット1	評価実施年月日	平成22年1月5日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月10日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>地域密着型サービスとして、尊厳、家庭的な環境、その人らしさを挙げ、事業所独自の理念に基づきケアを実践している</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>勉強会、スタッフ会議、日々のケアの中でも理念の実践に向け取り組んでいる</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ホーム主体の行事や地域の中でも話に上げている。見学やボランティアも受け入れ伝えている</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>隣近所の人と気軽に挨拶や会話をしている。又、近所の方がホームの利用者の顔を見に来り、一緒にレクリエーションを行ってくれたり、気軽に立ち寄ってくれるようになった</p>	○	もっと多くの近所の方に気軽に来訪して頂けるようにしていきたい
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町の行事には出来るだけ参加し、ふれあう場面作りと事業所への理解を深められるように努めている。又、町内の一員として、回覧板の受け渡しを入居者と一緒に届けている</p>	○	もっと地域にて交流を図ってきたい
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>小学生の授業の取り組みへの協力をし、小学生に福祉に関心を持ってもらえるよう取り組んでいる</p>	○	地域を支える事が出来るように協力していく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	改善が必要な部分については、出来ることはスタッフ同士で話しながら取り組んでいる		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	積極的に意見を出して頂けるよう呼び掛けている。又、意見要望は、サービスの向上に役立てるよう取り組んでいる	○	委員に町内会長、ご家族代表の方も新たに加わって頂き、サービスの向上に活かしている
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市町村には、蜜に連帯をとり、相談しながらサービスの向上に取り組んでいる		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修会に参加し、配付された資料や学んだ知識はスタッフ勉強会、研修で学んでいる	○	現在必要な方は居ないが、対応出来るように知識を深めておく
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	勉強会等で話し合い学んでいる。今後も現場内で、スタッフ同士のチェックや意見交換で見逃さない環境作りを徹底していきたい	○	虐待に関する知識とスタッフの意識向上を目指して防止の取り組みを行う
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居される場合に重要事項や契約に関して説明し、不明な点や質問や疑問等を伺うようにして理解、納得を頂く		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者やスタッフが意見や不満を聞く事が出来るよう。一人一人の入居者さんと談話の中でさりげなく表せる環境や機会を設け、個人を尊重しながら改善に向け取り組んでいる	○	第三者の苦情処理担当者の利用を気軽に活用して頂く
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	月1回のお便りで、医療面、生活面の報告をしている。ホームのニュースレターでは、行事や人事異動についても家族に知らせている。近況に変化があれば、その都度、電話にてご家族に報告している		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご面会や電話で、ご家族に意見や不満、苦情がないかを聞くようにし運営に反映させている	○	不満、苦情がご家族から言われた場合は、報告書に記入し、スタッフ間で話し合い、今後の運営に反映させている
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議や毎日の申し送り等で機会を設けている。反映できる事は取り組むように努めている		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	受診や緊急事態や必要に応じて対応できるよう調整している		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者にダメージがないように他のスタッフが馴染みになるよう配慮している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は、スタッフの段階に応じて受講している。現場でも、勉強会などで学びを深めるように機会を作っている		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	町の地域包活支援センター、デイサービス、特別養護老人ホーム、居宅、訪問の職員の代表が集まり、地域連帯介護サービス関係者会議を開催し、地域の高齢者状況などの話し合い、情報交換等をし交流する機会を持っている		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は、管理者やスタッフとも気軽に話せる環境作りを行っており、交流を図れる機会を作っている		
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	管理者やスタッフの意欲や向上心を促進し、向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご本人の不安や求めることを傾聴をさせて頂き、受け止めるよう取り組んでいる		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	ご家族の今、困っている事や、不満、負担を軽減できるよう、まずお話を聞かせて頂き、ご家族やご本人の一番良い方向性に近づけるように努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	フォーマル・インフォーマルなサービスの情報提供しながら、納得して自己決定して頂けるように対応している		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にスタッフが面談したり、ご本人にも見学に来て頂いたりしている	○	入居前に通所のデイサービスで利用して頂き、ホームに馴染んで来られた時期を見て、家族との相談を重ねた後、入居となった事例がある。今後も必要な方には、応じていきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居者が調理に携わったり、一生の先輩として、経験の中を聞かせて頂き、本人から学んだり、支え合う関係を築いている		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常に入居者と談話し、話の中で、寂しいそうだった、必要があれば面会に来て頂いたり、一緒に病院に受診して頂いたり理解と協力を頂いている		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族には、ホームでのご本人の様子をまめに報告し、認知症への理解とご本人の理解を深めて頂き、良き関係作りに向け取り組んでいる		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ホームでの面会も自由に出来るようにしている。又、住み慣れた場所へのドライブに出掛けるなども行っている。馴染みの医療機関、お店等の利用も支援し、関係が途切れないように努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が談話されたりする機会をスタッフが間に入って作っている。又、出来ない事を変わりにして下さったりと支え合って下さっている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所された利用者さんの状態や相談を受けたり、ご家族が年に数回近況報告してくれている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者さんの希望をきくよう、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。希望、意向の把握に努めている。希望を表わすのが困難な方には、状況をみながら本人本位になるように検討している		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族より、情報収集を行い把握をしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	申し送り、ミーティング等で、スタッフ間での情報交換を行い、情報を共有しながら、現状を総合的に把握するよう努めている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族から情報を提供してもらった上で、ホーム内の生活の中から、課題を見つけ、個人に合ったケアプランを作成し、実施するように努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的(3カ月程)な見直しと共に入院し退院後の状態変化に合わせケアプランの見直しを行っている		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の様子、ケアプランの実践、バイタル、食事摂取、尿量などを個別に記録し、個人の課題もケア記録に書き込み、ケアプランの見直しに活かせるようにしている。又、連絡ノートも活用し、情報を共有している		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族が来られ、希望があれば、食事や利用者さんとの宿泊にも対応できる		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ボランティアで町内の方が、大正琴の演奏に来られたり、フラダンス等に来て頂いている。警察、消防との連帯体制はできている	○	利用者一人一人の写真付きの情報を役場を通して警察に置いている
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他の介護技術支援専門員やサービス事業者と話し合い、グループホームの良さを実感して頂いている。又、こちら側からも支援出来る体制を作っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	必要があれば、連帯を取り、ケアマネジメント等について協働しているが、権利擁護等についての実質的な相談事例が、今の所はない		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 ○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>基本的に係りつけ医を受診できるよう支援している。状態に応じてスタッフ、看護師、介護支援専門員と話し合い、適切な医療を受け入れるよう支援している</p>		
<p>44 ○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症に詳しい医師(医療機関)と連帯を取りながら、治療や診断、電話相談も受けられるよう支援している</p>		
<p>45 ○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>医療連帯の看護師や、当事業所の看護師、スタッフと情報を共有しながら、相談援助を頂き、健康管理を支援している</p>		
<p>46 ○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院先の病院医師、看護師と常に連絡相談体制を築き、早期退院に向け取り組んでいる</p>		
<p>47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>ホーム内の対応については、入居時に説明し書面にて同意して頂いており、重度化した場合は、その都度、話し合いを繰り返しご本人、ご家族の意向を尊重しながら決定するようにしている</p>		
<p>48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>医療機関と連帯を図りながら、支援についてチームで相談し、検討している。又、ターミナル研修会に管理者、スタッフ参加し、学んできた</p>	○	<p>ご本人、ご家族の意向を十分に考慮し、迅速に対応出来るようにしたい。又、重度化、終末期の知識を身につけると共に重度化に向けた体制を考えたい</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ご家族と相談を重ね、行政とも情報交換し、住み替えである先の担当スタッフとも情報交換を行い、ダメージを出来るだけ防ぐように努めている</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>プライバシーを損ねる対応や声掛けを行っていません</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>その場において、個人が自己決定出来るように声掛けし、わからない場合は、わかるように説明し、本人が納得できるような支援を行っている</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人一人のペースに合わせて、業務やスタッフの都合で待たせたり、急がすことのないように支援している</p>	○	<p>スタッフの都合が優先している事もあるので注意したい</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>本人の希望により、訪問する理容院を利用されている</p>	○	<p>今は、利用者側から行きたい理容院は特にないとのことと訴えはないが、行きたい理容院がある場合は、送迎などをしていきたい</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>食事の準備や食事の片づけ等、出来る方が出来ることをスタッフと一緒に取り組んでいる</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒や喫煙を望む方はいないが、おやつや飲み物は、出来る限り本人の好みの物を提供している		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人一人の排泄状況を把握し、定期的や訴え時にトイレ誘導するなど、個々に合わせた排泄ケアをしている		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯は午後になってしまっているが、希望日やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自立している入居者さんは、一人一人好きな時間に好きな所で横になったり休んで、頂いている。介助の必要な入居者さんに対しては、訴え時や状況に応じて、ベッドやソファで休めるよう支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	家事や散歩が生きがいの方に対しては、スタッフと一緒にっており、気晴らしにドライブや買い物に出掛けるなどし、張り合いのある生活支援をしている	○	一人一人が生き活きと生活出来るように、情報収集し支援していきたい
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理能力のある入居者さんには、ご家族と相談し、小遣い程度の所持をして頂き、通院時に欲しい物を購入している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望により、天候、気温、路面状況に考慮しながら、戸外へ散歩や買い物に出掛けている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	ご家族をお誘いし、お花見に出掛けたり、町内、町外の行事(お祭り等)に出掛ける機会を作り、外出支援を行っている	○	一人一人の行きたい所へ個別に行けるような支援をしていきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望時には、連絡がとれるように支援している	○	毎年、年賀状を書かれています方もいる
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や馴染みの方の来訪時には、気兼ねなく居室やホールで寛いで頂き、居心地良く過ごせるよう配慮している。その際、スタッフがご家族に近況報告などを行っている	○	居心地良く過ごせるよう、スタッフは、挨拶や笑顔、言葉遣いなど、充分配慮していきたい
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	申し送り、勉強会、研修などで身体拘束について話したり学んで、取り組んでいる。当ホームでは、身体拘束は行っていない		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上施錠している。日中は鍵を掛けずに、自由にポストから新聞や郵便物を取りに行かれたり、外に出られるようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	プライバシーに配慮しながら、所在や様子について、スタッフは気にかけて把握している。夜間は2時間置きに巡回にて安全確認している		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品については、スタッフが管理している。洗剤、包丁などは、夜間は、棚の中に保管している	○	一人一人の状態に応じ、ハサミ等をお借りする場合も、見守りをし、回収して危険を防止している
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	細心の注意を払いながら支援している。事故防止の知識を勉強会などで話し合い学んでいる。誤薬などは、日付、薬の内容を確認している	○	事故対策委員会の活用を取り入れ勉強していく
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	職員全員が救命講習を受け、勉強している。又、勉強会などで看護師に応急手当などの指導を受け勉強している	○	スタッフが実践出来るよう、研修を重ねていきたい
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の避難訓練を実施しており、全員が対応出来るようにしている	○	夜間を想定した避難訓練も実践していきたい。地域の人々の協力を得られるよう働きかけもしている
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	状態に応じて、その都度、ご家族と話し合い対応している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日定時のバイタル測定を行い、体調を管理している。異変時は、管理者や看護師に相談し報告しかかりつけの病院と連携を取り、必要時には、受診している。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	定期薬は勿論、新しく処方された薬についても、副作用、用法や用量について、全スタッフに伝え、通院記録、ケア記録等にて確認できるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事や水分摂取量を把握し、便秘傾向にある入居者については、水分量や運動、下剤服用などケアプランに位置づけ、便秘予防の方法をスタッフ間で話あっている。	○	腹圧マッサージや温罨法なども対応している
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、口腔ケアを実施し、一人一人が同じケアにならないように、その人の力に応じた支援をしている。舌苔についても、ガーゼを使用し、舌の色にも注意している。夕食後は、義歯は、洗浄剤に浸している		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の持病、体調に合わせて、食事量、水分量に合わせて、対応し、個人の咀嚼状態や嚥下状態に合わせて、きざみ食やミキサー食を提供し、むせ込みやすい入居者さんは、お茶、味噌汁などの水分には、トロミを提供している	○	食欲低下した場合は、食事、水分チェック表を利用し、改善に努めている。又、食事量が少ない時は、栄養補助食品が処方されている入居者さんもいる
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	感染症におけるマニュアルを作成し、スタッフは周知している。玄関や洗面所には、消毒液を設置し、スタッフ、入居者、面会者にも行ってもらっている。又、手洗い、うがい等も行っている	○	手すり、便座等も、塩素系漂白剤にて毎日、拭いている。又、新しい感染症がある場合は、研修等に参加し、勉強会などを通じて全員がすぐに対応できるようにしている

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、布巾は毎日、塩素消毒し、食材については、購入時や調理前にも鮮度を見極めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	冬はイルミネーションで楽しめるようにしている。ロードヒーティングで転倒予防に努めている	○	冬場の雪が多い時は、ロードヒーティングのきいていない所はこまめに除雪する
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天候に合わせて、レースのカーテンで光を調整し、年末から年始めには、メ飾り、鏡餅を飾るなどし、季節感を取り入れている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の中でも、落ち着ける場所に座ったり、横になったり、自由にして頂き、時には入居者さん同士で思い思いに過ごせるような空間作りを行っている		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、本人が使い慣れた物や居心地よく過ごせるものを持ってきてもらうようにお話し持ってきてもらう		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	その都度、利用者さんと相談し、室温調節、換気を行い快適に過ごせるようにしている。又、トイレ、居室等で、消臭剤、スプレー缶など使用し、匂いが気にならないように支援している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。</p>	<p>手すりやその人に合わせ、ベットの横には立ち上がりバーを設置し、安全に行動出来るようにしている。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>自立支援を目標に、各利用者さんのわかる事、出来ることを見極め、持っている能力を活かせるよう支援している</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>庭にベンチを置いて、外気浴をしたり、鳥の巣箱を置いて、餌をあげたり、菜園を作ったりと利用者さんに楽しんで活動できるようにしている</p>	



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○③たまに ④ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働けている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)  
 理念に基き一人一人がこのグループホームで生き活きとご自分らしく生活して頂けるよう支援をしている。  
 利用者様の尊厳を守り、レクリエーションや関りを多く持つよう努め、利用者様の笑顔を引き出せるよう、全職員で取り組んでいる